

# 千葉大学歌

わ かいそらわかいつち ぼう そうの  
 かぜはうた うーよ たいようのいき  
 よせくるところ ないかいの わきただようところ  
 ろーみよ せいしゅんの  
 はなのよろこび ちば だいが  
 くーこころの ふるさと

## 千葉大学歌

勝 承夫 作詞

- 一、若い空 若い地  
 房総の 風は歌うよ  
 太平洋の意気 寄せくるところ  
 内海の和気ただようところ  
 みよ 青春の 花のよろこび  
 千葉大学 心のふるさと
- 二、晴れわたる 満ちわたる  
 新鮮な 沙の香りよ  
 向学の窓 清らに高く  
 探究の庭 はてなく 広く  
 みよ 燦然と叡智あつまる  
 千葉大学 文化のさきかけ
- 三、若い雲 若い鳥  
 黎明の 星は光るよ  
 躍進の道 はるかにひらけ  
 純情の友 楽しく競う  
 みよ 永遠の聖火燃えたつ  
 千葉大学 栄はるまなびや

# 千葉医学専門学校校歌

*Allegretto Maestoso*  
 ながめゆかしき いのはながおか こじょう むな  
 しくまつおひたれど たかきほま れはわれらが  
 ぼこう いやくのは 一ふと とくはや されてたが いにほこ  
 る まなびのともよ われらがにんむはいやたかし

## 千葉医学専門学校校歌

- 一、眺め床しき亥鼻ヶ丘  
 古城空しく松老ひたれど  
 高き誉は我等が母校  
 医薬の覇府と夙くはやされて  
 互いに誇る学びの友よ  
 我等が任務はいや高し
- 二、盛者の夢も疾く醒めぬれば  
 名残の光其の影薄し  
 生の流のどよめる時も  
 人懐槍の恨ぞ深き  
 いで仁愛の我等の手にて  
 世の禍を救はなん
- 三、匂ふ若草色新しき  
 生命に萌ゆる丘の上の春  
 我等が胸に真心こもり  
 我等が腕に力満ちたり  
 見よ人類と国の期待は  
 我等が未来の上にある

## 春の逍遙歌

宗像 小一郎 作詞

丹治 注 作曲

一、眺めは霞み房総の 連山春の粧に

漣み寄する岸に立ち 遙けく丘を振り向けば  
静かに古りて古松の間 榮ある歴史の五十年

二、花の香りを慕いてぞ 文を左手にさまよえば

昔の声も春の夢 灯窓辺は学舎の  
歌声意気あり臘月 淡くかすめり千葉城址

三、春去り秋去り幾星霜 思えば波の寄すかごと

登り下りし此の岡に 幾千人の変れども  
脈引く意気は永久に 千葉の理想を流すなり

四、五尺の渾身命とて 人人類のためならば

朝日に匂う桜花 岸に散りても三日月の  
満ちて御空に望たれば ああ会心の笑たらん

## 秋の逍遙歌

宗像 小一郎 作詞

大谷 禎一 作曲

一、秋空窓辺に降りそ、き

むら雲思く空を行く  
薄ヶ原になびく穂の  
診よ見事ぞあ、秋か

春に夢みしあの果に

散る落葉のありしとは

二、それ若人は鳳凰の

空馳す雄ぞ抱かなん  
青き御空はひらけたり  
行くべき果は我知らず

さらば希望の春秋を

君諸共に謳歌せん

三、世紀の浪は此の岸に

寄せては返す潮しぶき  
荒るとも人よ国の為

此の日の本は房総の

亥鼻ヶ丘に立てる者  
あ、千葉菜の健男児

四、榮ある者は又亡び

月の盈虚を思ふ時

めぐる宇宙の不可思議さ

理想が大きき若人の  
医薬の道にいそしむも  
此の地に生くる幸の為

五、見れば秋月傾きて

星満天に輝けり

寝て結ばん夢の窓  
閉むるは惜しきこの良夜  
思い出となる若き日を

友よ語らん今暫し